



2021年3月1日

各 位

会 社 名 株式会社ストリームメディアコーポレーション
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 崔 官鎔
(証券コード 4772 JASDAQ グロース)
問合せ先 取締役経営企画部門長 山田政彦
(TEL : 03-6809-6118)

中期経営計画の提出等について

当社は、2021年12月期～2023年12月期に係る中期経営計画を策定いたしましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、当該資料について、当社のホームページに掲載いたします。

URL : <https://www.streammedia.co.jp/ir/>

掲載日：2021年3月1日

【添付資料】

2021年12月期～2023年12月期 中期経営計画

以上



2021 年 12 月期～2023 年 12 月期 中期経営計画

今後 3 か年の中期経営計画

(1) 当中期経営計画提出時点における前事業年の総括

当社を取り巻く事業環境といたしましては、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、政府によるイベント開催制限や渡航制限等により、海外アーティストのオフラインでの大型イベント開催は依然として難しい状況が続いている一方で、ステイホームに伴う巣ごもり消費が増加する中、オンライン動画サービスへの注目度は更に高まっており、韓国コンテンツが脚光を浴びる機会はさらに増加しております。

このような経営環境の中、当社の取り組みといたしましては、まず「ライツ&メディア事業」において、既存の 3 チャンネル体制の見直しを行い、赤字の続いていた DATV、Kchan！韓流 TV の閉局を決定し、リソースを『KNTV』に集中させることで、選択と集中による収益構造の改善に向けた体制作りを行いました。また新たにオンライン配信事業としてスタートしたオンライン専用公演『Beyond LIVE』では、JYP エンターテインメントのタグにより、東方神起や TWICE 等、両社所属の人気アーティストが続々出演し、大きな話題となる等、近年急速に進む視聴スタイルの多様化に敵った新規事業の開拓も積極的に進めております。

また「エンターテインメント事業」におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大によるイベント開催制限により、オフラインコンサートを合併後一度も開催できず、それに伴い MD 事業やファンクラブ事業、音楽事業も滞る等、かつてない極めて厳しい状況となりましたが、年末以降はアルバム・CD を続々リリースする等、段階的にビジネスを再開しつつあります。

このような状況の中、本来は株式会社 SMEJ との合併により売上高及び営業利益の前事業年度比大幅増を見込んでおりましたが、SMEJ の収益の中核を担っていたオフラインコンサートを合併後一度も開催できなかった他、合併費用及び DATV、Kchan！韓流 TV の閉局費用、KNTV 801 放送開始のための初期費用が発生したこと等により、営業損失が発生致しました。

この結果、当連結会計年度における売上高は 4,270 百万円、営業損失は 1,200 百万円、経常損失は 1,206 百万円、親会社株主に帰属する当期純損失は 1,241 百万円となりましたが、これらは主に一時的な外部要因や今後の当社の成長に必要な投資によるものであり、今後通常通りのビジネスを再開することにより改善・回収できるよう努めてまいります。

（２）中期経営計画の概要及び策定の背景

当社は、韓流専門チャンネルKNTV等のCS放送チャンネルの運営や、アーティストのマネジメント、イベント開催、ファンクラブ運営、MD事業等を主たる事業として取り組んでまいりました。2018年には、東方神起 や 少女時代、NCT等、多数の人気アーティストが所属するエスエム・エンタテインメント・グループ傘下として強固な基盤を構築してまいりました。さらに直近では、2020年8月1日付でエスエム・エンタテインメント・グループ所属アーティストの日本でのマネジメントを担う株式会社 SMEJ（以下、「SMEJ」）との吸収合併を行った他、同合併に伴いオンライン専用コンサート『Beyond LIVE』の運営を行う株式会社 Beyond Live Corporation（以下、「BLC」）を子会社化したことにより、アーティスト及びコンテンツラインナップの拡充を図るとともに、プラットフォームの拡大を加速させております。

当社は、今後も引き続き既存事業において KNTV 等の既存プラットフォームの競争優位性の向上に努めるとともに、昨今拡大が加速化しているオンライン配信市場の積極的な開拓により新たな成長ドライバーの創出を目指してまいります。また SMEJ との合併により、より大きな規模で安定的にエンターテインメント事業の推進が可能な体制となったことを機に、今後は日本やアジアのみならず、世界を舞台としたメディアコンテンツ企業として発展するべく、後述の事業戦略に沿って、持続的な成長を実現してまいります。

（３）中期事業戦略

① 放送事業の体制改善、オンライン動画市場の開拓

KNTVへのリソース集中投資及びVOD配信等、動画市場の開拓を図る

② オフ・オンラインコンサートのシナジー創出

2021年の下半期オフラインコンサート再開を想定し、オンラインコンサートとのシナジー創出を図る

③ オンラインプラットフォーム内製化による売上・収益拡大

既に調達した資金を投入し、Beyond LIVE等のオンラインプラットフォームを収益化しマネタイズ推進

① ライツ&メディア事業におけるプラットフォーム・コンテンツの拡大

当社において放送事業は、継続的・安定的に収益を確保できる基幹事業と位置付けており、当社の事業規模拡大のためには当該事業の収益力の改善が不可欠です。当社はこれまで KNTV、DATV、Kchan！韓流 TV の3チャンネル体制で運営を行ってまいりましたが、DATV 及び Kchan！韓流 TV におきましては近年赤字が続いており、今後の黒字回復は難しいとの判断のもと、今回閉局を決定致しました。今後はこれまで3チャンネルに拡散していたリソースを KNTV に集中投資いたします。すでに KNTV では従来の人気ドラマやバラエティの日本初放送に加え、オンライン配信事業で開催した Beyond LIVE の放送もス

タートする等、既存事業と新規事業のシナジーも可視化しております。このような施策により、今後はブランド力を向上させ、より魅力的なプレミアムチャンネルとしてリテンションを強化してまいります。

また KNTV は 2020 年 6 月から専用アンテナ不要で視聴可能な CS110 度での放送をスタートいたしました。加えて今後は当社がこれまで KNTV 等のチャンネル運営により培ったノウハウを生かしたリニア配信事業への参入も予定しており、新規加入者の獲得をさらに強化してまいります。

版權事業におきましても、最近のコンテンツ需要の高まりを追い風に、今後は韓国コンテンツのみならず中華圏等、グローバルコンテンツの版權購入・販売も拡大していく予定である他、作品の制作段階から出資することで優良コンテンツの早期確保にもより力を入れてまいります。

② エンターテインメント事業の安定化及びビジネス拡大

当社はこれまで他社所属のアーティストを中心に日本でのマネジメントを行い、アリーナ・ドームクラスのコンサート等も行ってまいりましたが、契約解消等のリスクにより大型アーティストの安定的な確保が難しく、アーティストの有無によって業績の変動を免れない点が課題となっておりました。一方で、当社が 2020 年 8 月 1 日付で吸収合併を行った株式会社 SMEJ は、エスエム・エンターテインメント・グループに所属する東方神起や少女時代、NCT 等、有名大型アーティストの日本独占マネジメントを担い、豊富なアーティストラインナップを生かし、コンサート事業、音楽事業、MD 事業等を展開してきた会社です。2019 年ベースで見ますと、当社の約 10 倍にあたる規模の営業利益を出している会社です。このように、合併に伴いエスエム・エンターテインメント所属の数多くのアーティストを確保できたことで、当社といたしましては、今後は従来よりもはるかに大きな規模でエンターテインメント事業を安定的に行っていくものと予測しております。

また現在は、オフラインコンサートを開催できない大変厳しい状況となっており、2021 年上半期まではこのような状況が続くものと予想しておりますが、2021 年の下半期以降はオフラインコンサートの開催が可能になると想定し、通常時の年間動員水準約 150 万人（2017 年：約 165 万人、2018 年：約 220 万人、2019 年：約 150 万人）のいち早い回復を目指し、ビジネスの正常化ができるよう準備を続けてまいります。また、新型コロナウイルス感染症の収束後も、オフ・オンラインコンサートの 2 本柱で臨むことにより、より多くの集客を確保するだけでなく、MD 事業、音楽事業、ファンクラブ事業といった周辺事業との連携もより拡大させてまいります。

③ 新規事業の更なる開拓及びマネタイズ化の推進(オンライン事業等)

当社はこれまで、KNTV 等のチャンネル運営を主力事業として、テレビを中心としたプラットフォーム展開を行ってまいりました。近年では各種メディアデバイスや通信環境の発展に伴う視聴スタイルの変化等、事業環境の変化に合わせたサービスの提供が課題となっておりましたが、SMEJ との合併に伴い BLC が当社の連結子会社となったことにより、オンライン配信分野への本格的な進出を果たすことができました。BLC が運営する『Beyond LIVE』はオンライン専用コンサートの先駆けとして、最新技術を活用した華やか

ステージはもちろん、世界各国のファンと同時にコミュニケーションが可能であり、新たなエンターテインメントとして大きな注目を浴びました。また JYP エンターテインメントとのタグにより、東方神起や TWICE 等、両社所属の大型アーティストが続々と登場している点も大きな魅力となっており、視聴者数及び注目度も着実に高まっております。今後は世界各国で視聴可能というメリットを生かし、グローバルアーティスト展開を実施する予定であります。現在、BLC は、他社プラットフォームを通して Beyond LIVE を発信しており、売上と利益への貢献幅がとても小さい状況にありますが、今後は Beyond LIVE の自社プラットフォームを構築することにより、プラットフォーム提供による売上及び収益が大幅に改善する見込みとなっております。このようなプラットフォームの内製化に向けた資金調達もすでに完了しておりますので、Beyond LIVE の収益改善のいち早い達成はもちろん、完成したプラットフォームを活用した新規サービスも模索することで更なるマネタイズ化を推進してまいります。

（４）事業の進捗状況及び今後の見通し並びにその前提条件

今後引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、2021 年の上半期までは厳しい状況が続くものと想定しておりますが、同年下半期以降、段階的に通常のビジネスを再開可能と予測し準備を進めております。

当社といたしましては、（３）①に記載のとおり、ライツ&メディア事業における赤字体質からの脱却と収益性の改善（３チャンネル体制から１チャンネルへのリソースの集中投資）及びグローバル市場を視野に入れた版權購入・販売マーケットの拡大、また（３）②に記載のとおり、エンターテインメント事業における新型コロナウイルス感染症拡大収束後に予想される顧客・市場・社会の変化への対応、そして（３）③に記載のとおり、Beyond LIVE の自社プラットフォームの構築及び当該プラットフォーム提供等による収益化及びマネタイズ化等の計画が順調に推移することを前提として、2021 年 12 月期の業績予想を以下のとおり策定しております。

（％表示は対前年増減比）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
通期	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
	6,861	60.7	△322	—	△307	—	△309	—

なお、今後当社が高い収益性を見込んでおりますエンターテインメント事業におきましては、特に当面新型コロナウイルス感染症の拡大状況及びそれに伴う政府の施策により事業に大きな影響を受けることが予測されることから、イベント等の開催時期・規模・回数の変動により収益の計上が予定と乖離する可能性のある事業の特性上、中期的な目標数値を公表することは困難であります。当社は本計画に基づき、既存事業の収益効率化、新規事業のマネタイズ化、また既存事業と新規事業のシナジーの最大化を実現することで、全社をあげて持続的な成長を目指してまいります。

以上